

# 探求

## 産地企業

モノ作りで  
次代を切り開く

52

日本最大の機業、丸井織物グループ。保有織機台数は宮米織物など関連会社も含むと1000台を超え、昨年3月から24時間フル稼働が続く。賃

### 丸井織物

## 先見性が繁栄呼び込む

も、近年は素材開発力と提案力を身に付けており、石川県中能登というへき地にありながら、今では日本国内はもとより、海外からも開発素材を求める顧客が同社を訪れる。

「スポーツ素材創造企業宣言」を掲げてから。この先見性が繁栄を呼び込んだ。現在の生産内訳は、スポーツカジュアルが60%、車両エアバッグ

が60%、車両エアバッグや粘着テープ、ティッシュなど非衣料が20%、と直接話をし、用途開拓を進めてきた結果10

「この活況がいつまで続くか分からない」と宮本社長は言う。この危機感を背景に、設備投資を加速する。年内に関係会社である良川サイジングに同社のウォータージェット織機147台を移設

浸透したが、最近春夏し、新たに同数の織機をアム・テキスタイル・シヤパンへの単独出展を予定しており、本来は畑化や後継者難、受注量減少などを背景に苦戦を強いられる機業も少なくない。一方で、同社のように

「アイデア・トーカイ」にも参加、「短繊維とのコイ。一方で、同社のようにフル稼働が続き、設備投資や展示会出展などで

元々は裏地を主力とする機業だった。宮本徹社長によると、今の繁栄の

ポリエステル裏地が10

の提案を進めてきた結果

10月に開かれる「プレミ

エトロの「欧米向けテキ

将来への布石を打つ企業



資料室には同社の開発力を物語るように大量の生地見本が並び

スタイル輸出展示商談会」にも参加し、海外への提案に

もある。このような「二極化」が進むという見解を持つ産地関係者は多いが、一極を代表する企業の一つが同社であることに異論を挟む余地はないだろう。

(毎週月曜日に掲載)

### 丸井織物

代表者	宮本 徹
本社	〒929-1801 石川県鹿島郡中能登町久乃木井部15
電話	0767-76-1337
HPアドレス	http://www.maruij.co.jp
設備 (関係会社含む)	ウォータージェット織機1006台、 エアジェット織機98台、燃糸機整経機、糊付機、 オートドロイングマシン、など